



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 初任者研修 課題等研修Ⅱ

令和2年6月18日（木）実施

対象：高知市立小・中・義務教育学校の初任者

### 講義・演習「児童生徒理解Ⅱ ー不登校についてー」

講師：吉岡 孝紘 臨床心理士



Q 昼夜逆転の生活を直してあげたいのですが…。

学校を休んでいることで、昼間、活動することにうしろめたさが生まれ、その結果、夜型の生活になってしまいます。昼夜逆転を注意して直そうとするのではなく、日中、うしろめたさを感じないように、いかに過ごしやすい環境を整えるかが大切です。



Q ゲームばかり。何とかやめさせたいのですが…。

好きなものを否定されると関係が築けなくなります。まずは、現実世界で関係を築くために、ゲームなど、好きなものを同じ空間で一緒に楽しむことから始めるのもよいかもしれません。ゲームはコミュニケーションのツールとなり、一人でゲームをしている時とは大きな違いが生まれます。

### 不登校のイメージ

水泳に例えると、不登校の子どもたちは学校に適應できず、どこかで溺れてしまい、プールサイドで心を休めている状態です。

プールサイドで十分な休息をとる。

・息 継 ぎ  
・プールサイド  
・プ ー ル

息継ぎの方法を身に付ける。

・心身の休息、緊張の緩和  
・安心できる場所、安定を取り戻す場所  
・緊張場面、成長を促される場所

少しずつ水に慣れていく。

もう一度プールで泳ぎ始める。

休 息  
休 み  
支 援  
水  
を  
に

「どうやったら登校するか」ではなく、「どうやったら成長するか」という視点で不登校と関わりましょう。

## 不登校の支援で大切なこと

### 保護者との良好な関係づくり

保護者も傷つき、自分を責めています。子どもとの関係づくりには保護者の安心感が不可欠です。保護者が学校を信頼し、一緒に支援していく関係づくりが不登校支援には大切です。

保護者

学校

学校

保護者

・いじめがあったんじゃないか？  
・担任との相性が悪いんじゃないか？

対立

・親の愛情不足では？  
・登校させてくれないと何もできない

・保護者も困っているはず  
・まずは、保護者とつながろう

良好

・家庭だけで抱え込むのではなく、悩みを聞いて欲しくなる  
・子どもが学校への安心感を抱く

### 何も悪くない

「先生も、親も、本人も、過去も何も悪くない」ということを周囲の大人が共有し、当事者が互いに孤立しないように互いに助け合いながら支援をすることが大切です。

原因を探さず、  
今できていることを  
探して支えましょう！

### 【受講者の感想】

- ・保護者との良好な関係づくりが不登校支援において非常に大切であると分かりました。
- ・一人一人に合ったペースがあると思うので、焦らず寄り添うような形で不登校児童に関わりたいです。
- ・不登校を問題としてではなく、状態として捉え接していくことが大切だと分かりました。

対象：高知市立小・中・義務教育学校 道徳教育推進教師及び参加希望教職員



目的

道徳科の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解を深め、学校における道徳教育の充実に役立てる。

【講義・演習】 「『特別の教科 道徳』実践上の課題克服」

講師：京都産業大学 柴原 弘志 教授

## 「特別の教科 道徳」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（ ）内は中学校

### 道徳科の授業で耳にする課題

- ◆ 授業が深まらない！
- ◆ 中心発問での意見交流の時間が不足、活発化できない
- ◆ 大きくりな評価になっているのか疑問である
- ◆ 児童生徒の主体的な学びになりにくい

解決するために

### 道徳科における

### 確認したいこと

- 1 主体的・対話的で深い学びとは何か
- 2 「評価の観点」と「評価の視点」の違い
- 3 大きくりな評価のために
- 4 内容知と方法知の学びとは
- 5 効果的な発問とは 重層的な発問の工夫

### 主体的・対話的で深い学び

（「中央教育審議会答申」平成28年12月）

- 1 **主体的な学び**…児童生徒が問題意識をもち、**自己を見つめ**、道徳的価値を**自分自身との関わり**で捉え、**自己の生き方**について考える学習  
**対話的な学び**…子供同士の**協働**、教員や地域の人との**対話**、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い**議論**すること等を通じ、**自分自身の道徳的価値の理解**を深めたり広げたりすること  
 <対話の対象：児童生徒、教員、地域の人、家族、登場人物、先人・先哲、**自分自身**>  
**深い学び**……道徳的諸価値の理解を基に、**自己を見つめ**、物事を**多面的・多角的**に考え、**自己の生き方**について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習

### 2 「評価の観点」と「評価の視点」の違い

道徳科の評価は「到達度評価」ではなく「個人内評価」として見取る  
 道徳性そのものについては観点別評価をしないので、「**観点**」ではなく「**視点**」という言葉を用いている  
**観点**…授業づくりや授業評価のポイント **視点**…児童生徒を対象とした評価のポイント（児童生徒と共に確認）  
**多面的・多角的な見方**へと発展させているか  
 道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか

### 3 大きくりな評価

個々の内容項目ではなく、年間や学期といった**ある一定の時間的なまとまり**の中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する

- 垂直比較（成長を見取るための事例比較）
- 水平比較（同様な成長が見られる事例比較）

両方必要

### 「自己内対話」ができているかが大事！

自分が自分に自分を問う＝自分を見つめること

### 4 内容知と方法知の学び

**何を学ぶのか**＋**どのように学ぶのか**＝児童生徒の重要な学び  
 「内容知」＋「方法知」の学習⇒質の高い学習活動⇒豊かな道徳性の確かな育み

「吾を語らせる」には、教師の自己開示も必要  
正直な答えに価値を置き、傾聴すること

### 5 効果的な発問にするために

**発問の4類型** 永田 繁雄 教授（東京学芸大学） **重層的発問**（「問い返し」「切り返し」等）の工夫

- ・ 共感的発問（登場人物はどんな気持ち？）
- ・ 分析的発問（なぜそう行動したのだろうか？）
- ・ 投影的発問（自分だったらどう考える？）
- ・ 批判的発問（どうすべきか？すばらしさはどこか？）
- ・ 立場や対象を確認する
- ・ 根拠・理由を問う
- ・ 言い換えると
- ・ 具体化すると
- ・ 対比（AはこうだけどBは）
- ・ 批判・反例（本当にそう？）
- ・ 条件変更（もし～ならば）

### 【受講者の感想】

- ・ 「大きくりな評価」としての垂直比較と水平比較をし、その子の成長や学習状況、道徳性に係る成長の様子について、子どもにも保護者にも、分かりやすい評価をしないといけないと思う。そして、子ども同士が互いに傾聴できる学級経営をしていきたい。
- ・ 道徳の授業は本音で語り合い、正直な思いが語れる授業でなければならないと改めて思った。発問の4類型を意識し、自己を見つめる自己内対話ができる授業を目指したい。

